

報 告 書

お茶の水女子大学 学生主体の新しい学士課程創成事業 第 11 回 FD 講演

演 題

“Bringing Eating Disorders Prevention Into Focus as a Public Health Priority:
A Research Plan of Action”

—公衆衛生の最優先事項である摂食障害予防—活動の研究プラン—

演 者

S. Bryn Austin, ScD.

Associate Professor, Harvard School of Public Health, Harvard Medical School

日 時

10 月 2 日 (水)

15 : 00 ~ 16 : 20 (講演)

16 : 30 ~ 17 : 30 (フリーディスカッション)

講 演

場 所 : 共通講義棟 2-102

参加者 : 合計 37 名 (学内 : 学生 28 名・教員 4 名 / 学外 : 学生 2 名・教員 2 名・一般 1 名)

内 容

本講演会では、公衆衛生の立場で摂食障害予防に携わってこられたご実績にもとづき、臨床心理学と公衆衛生のアプローチを応用した摂食障害予防プログラムについてお話しいただいた。摂食障害の概要として、摂食障害の疫学的データ、摂食障害の心身の健康や社会的適応への影響について解説の後、一次予防の重要性、具体的な予防介入の方法について紹介があった。予防的介入は重要である一方、その評価研究は十分に行われておらず、予防的介入推進のためには専門家の育成が不可欠と強調されていた。日本においては、摂食障害予防は活発に行われておらず、公衆衛生の問題として摂食障害予防を扱うという着想は、聴衆にとって新鮮であったと思われる。講演後、参加の学生や研究者から有意義な質問やコメントがだされた。

学部生や大学院の学生にとっては、摂食障害の問題について理解を深め食行動やボディイメージの研究のための刺激となる講演であった。また、教員にとっては、領域融合的に問題解決できる専門家養成のあり方について検討する機会となったものと思われる。



フリーディスカッション

場 所：文教育学部棟 226

参加者：合計 8 名（学内：学生 6 名・教員 1 名／学外：教員 1 名）

Bryn Austin 氏を中心に、参加者の自己紹介や研究テーマの紹介、摂食障害やボディイメージの問題の予防の具体的な方法に関する議論など、自由な形式で懇談が行われた。日米の摂食障害の予防のとらえ方や現状に関する相違についてディスカッションを行った。有効な予防的介入のために必要な今後の研究や活動についても意見が交わされた。

